越谷市内の女性だけで建てた石仏

須藤賢一

はじめに

越谷市内に現存する女性だけで建てた石仏を調査した。庚申塔・馬頭観音像塔・十九夜塔…。全十一基。調査対象は、銘に「女人講」（にょにんこう）や「女講中」（おんなこうじゅう）のほか、女性の名前だけが刻まれているものに限定した。男女の名前が刻まれているものや造立者の性別が確認できないものは対象外とした。

庚申塔

庚申塔と女性について

越谷市内には、四百基ほど庚申塔が現存しているが⑴、あきらかに女性だけで建てた庚申塔は六基しか確認できない。そもそも庚申待は、男社会の江戸時代に、庚申講と呼ばれる男性の仲間たちによって行なわれていた集会であった。庚申待（こうしんまち）を三年十八回続けた記念に建てた庚申塔に女性の名が見えないのは、当然といえば当然である。したがって、「女人講中（にょにんこうじゅう）という女性だけ」⑵で建てた庚申塔は珍しい。というよりも「例外的な存在」⑶ともいえる。

⑴ 越谷市郷土研究会の加藤幸一氏が平成五年から平成十九年にかけて越谷市内の石仏を調査してまとめた◇川柳地区の石仏◇大相模地区の石仏◇荻島地区の石仏◇大袋地区の石仏◇増林地区の石仏◇桜井地区の石仏◇新方地区の石仏◇出羽地区◇大沢町・越ヶ谷町の石仏（越谷市立図書館所蔵）――には、四百二基の庚申塔が報告されている。また、昭和四十四年三月二十五日に越谷市史編さん室から発行された『越谷市金石資料集』には、三百三十五基の庚申塔が報告されている。

⑵ 『越谷市史（一）通史上』（越谷市役所、一九七五）一二三〇頁に「庚申塔を造立した講は数人から百人以上、組中から村中まであるが、なかには女人講中という女性だけのものがある」と書かれている。

⑶ 女性と庚申について、『庚申信仰』角川選書（平野実、一九六九）七十四頁・七十五頁に、「江戸時代の庶民の庚申待では［……］男中心の講が多いので、庚申塔を見ても女の名が刻まれているのはごく少なく、まして女だけのはまったく例外的な存在である」と記されている。

なお大泊の安国寺と登戸の稲荷神社には、施主名に「男女講中」と刻まれた庚申塔があるが、本稿では「女性だけで建てた石仏」に焦点を当てているので、安国寺と登戸稲荷神社の庚申塔は対象からはずした。

（一）閻魔堂墓地の青面金剛像庚申塔

石塔の最下部に女性十三人の名前が刻まれている。⑷

おけさ・おいね・およね・おさよ・おひわ
おたま・おえん・お□□・おてふ・おふ□
お□□・おね□・お□□

［場所］閻魔堂墓地
［住所］越谷市相模町一丁目
［石仏］青面金剛像庚申塔
［年代］江戸中期・享保七年（一七二二）
［像容］（青面金剛〔合掌型〕・日月・邪鬼・三猿）
［銘文］女性十三人の名前…他

三猿の下（⇒）に女性の名前が見える。

⑷この庚申塔は、無縁塔の中にあるので、左右・前列に石仏がぴったりと並んでいて、石塔の最下部に刻まれている女性名は一部しか目視で確認できなかった。十三人の女性の名前は、加藤幸一（二〇一九）「平成十六・十七年度　大相模地区の石仏　令和元年九月改訂」越谷市立図書館所蔵、四頁・四十二頁に従った。

（二）福寿院墓地の青面金剛像庚申塔

石塔の右側面に女性十四人の名前が刻まれている。⑸

おきよ・おりま・おぎん・おつや
おつる・おらく・おせん・おさよ
おいち・おナつ・おとら・おりん
おかん・おたま

［場所］福寿院墓地
［住所］越谷市相模町七丁目
［石仏］青面金剛像庚申塔
［年代］江戸中期・明和九年（一七七二）
［像容］（青面金剛〔合掌型〕・日月・二鶏・邪鬼・三猿）
［銘文］女性十四人の名前…他

右側面（⇒）に女性十四人の名前が見える。

⑸十四人の名前は確認できたが、誤読を防ぐために、加藤幸一（二〇一九）「平成十六・十七年度　大相模地区の石仏　令和元年九月改訂」越谷市立図書館所蔵、八頁・四十七頁と照らし合わせた。

(三) 十一面観音堂の青面金剛像庚申塔

石塔の左右両側面に女性二十二人の名前が刻まれている。(6)

(左側面) 十一人の女性の名前

おたつ・おまつ・おなつ・お□は・おむ□・おせん
おたけ・おたま・およね・おかね・おたけ

(右側面) 十一人の女性の名前

おしげ・おはつ・おとよ・おりん・おさよ・おはん
おかん・おみよ・おきよ・おし□・おきく

[場所] 十一面観音堂
[住所] 越谷市相模町六丁目
[石仏] 青面金剛像庚申塔
[年代] 年代不詳
[像容] (青面金剛〔合掌型〕・日月・邪鬼・三猿)
[銘文] 女性二十二人の名前…他

左側面(⇨)に十一人の女性名
右側面(⇦)に十一人の女性名

(6) 風化が進んでいて、刻まれている人数は確認できたが、名前は、ほとんど読み取れなかった。二十二人の女性の名前は、加藤幸一(二〇一九)「平成十六・十七年度 大相模地区の石仏 令和元年九月改訂」越谷市立図書館所蔵、十頁・四十八頁・四十九頁に従った。

(四) 西円寺の文字庚申塔

台石の正面に「女講中」
右側面に二十八人の女性の名前が刻まれている。(7)

□ん・りよ・あさ・はつ・きの・□き・りよ
とめ・□き・ほの・やす・□か・りせ・□き
とよ・つね・なつ・れん・なか・し□・なつ
□□・そ□・□□・ゆき・たね・そ□・ませ

[場所] 西円寺
[住所] 越谷市花田一丁目
[石仏] 文字庚申塔
[年代] 江戸末期・文久三年(一八六三)
[主銘] 「庚申塔」(日月・三猿)
[銘文] 「女講中」・女性二十八人の名前…他

台石の右側面に 28 人の女性の名前がうっすらと見える。
目視で確認できるのは「りせ」「りよ」「ほの」……。

⑺台石の劣化がひどく、かろうじて、刻まれている人数が確認できる程度なので、名前については、加藤幸一（二〇一九）「平成十六・十七年度　花田・小林の石仏　平成三十一年七月改訂」越谷市立図書館所蔵、四十一頁・九十八頁に従った。

（五）西円寺の「青面金剛」文字庚申塔

女人講中（女性の庚申講）の仲間十七人で建てた庚申塔。
石塔の正面下部に「女人講中」⑻「拾七人」と刻まれている。

［場所］西円寺
［住所］越谷市花田一丁目
［石仏］「青面金剛」文字庚申塔
［年代］江戸後期・寛政十二年（一八〇〇）
［主銘］「青面金剛」
［銘文］「女人講中」…他

「女人講」まで目視できる。
実際に刻まれている銘は「女人講中」

⑻石塔の前に花立が置かれているので、石塔の下部（向かって右下）に刻まれている銘が「女人講」までしか見えなかった。加藤幸一（二〇一九）「平成十六・十七年度　花田・小林の石仏　平成三十一年七月改訂」越谷市立図書館所蔵、四十二頁・九十九頁に従って、刻まれている銘は「女人講中」とした。

（六）報土院の青面金剛像庚申塔

石塔の正面（おんどりの上）に「女中三十人」と刻まれている。
「庚申講」「同行」の文字もあることから、
女性の庚申講（女講中）三十人で建てたことがわかる。

［場所］報土院
［住所］越谷市登戸町
［石仏］青面金剛像庚申塔
［年代］江戸中期・享保十五年（一七三〇）
［像容］（青面金剛［合掌型］・日月・二鶏・邪鬼・三猿）
［銘文］「庚申講」「同行」「女中三十人」⑼…他

石塔に向かって左側（右の図の○印内）
おんどりの上に「女中三十人」の銘が確認できる。

⑼石塔の風化で「庚申講」「同行」「女中三十人」の銘が読み取りにくくなっていた。誤読を防ぐために、加藤幸一（二〇一九）「平成十八年度調査　蒲生地区の石仏　平成三十一年七月改訂」越谷市立図書館所蔵、五頁・二十五頁と照らし合わせた。

馬頭観音

（七）西教院の馬頭観音像塔

台石に女性十三人の名前が刻まれている。(10)

おなこ・おはつ・おねでう・おか幼・おゑつ
おはな・おとく・おふじ・おかね・おひ幼
おたけ・おせん・おはつ

台石には「甲申待同行十三人」の銘文もあるので（甲申待は庚申待と同義）、女性の庚申待講の仲間（十三人）で建てたことがわかる。が、石塔（馬頭観音像）よりも台石のほうが古い感じがする。もともとは台石と石塔は別のものだったようだ。江戸中期以降は、庚申供養塔の主尊は青面金剛が一般的になっていくので、この台石の上には、青面金剛が陽刻された別の石塔（庚申塔）が置かれていたと思われる。

「荻島地区の石仏」（加藤幸一、二〇一七）にも「台石が庚申信仰をあらわしているのに、主尊が〔青面金剛ではなく〕馬頭観音となっているのは、台石と馬頭観音像が描かれた石塔とは本来別のものだったのであろう」とある。(11)

［場所］西教院
［住所］越谷市西新井
［石仏］馬頭観音像塔
［年代］江戸中期・宝暦十三年（一七六三）
［像容］三面六臂の馬頭観音像
［銘文］（台石）女性十三人の名前…他

台石に女性 13 人の名前が見える。

(10) 台石の劣化によって、一部、読み取りにくい箇所があったので、加藤幸一（二〇一七）「平成十四年度調査　荻島地区の石仏　平成二十九年三月改訂」越谷市立図書館所蔵、二十五頁・六十八頁・六十九頁と照らし合わせた。

(11) 加藤幸一（二〇一七）「平成十四年度調査　荻島地区の石仏　平成二十九年三月改訂」越谷市立図書館所蔵、六十九頁

月待塔

月待について

月待（つきまち）とは、十九夜・二十三夜など、特定の月齢の夜に人々が集まって月を拝む行事のこと。江戸後期（文化文政時代）から全国の村々で盛んに行なわれるようになった(12)。庚申の夜に行なわれる庚申待（こうしんまち）は男性だけで催されることが多かったが、月待のほとんどは女性たちを中心に行なわれた。

村の女性たちが、頭屋（とうや）と呼ばれる当番の家やお堂に集まって、飲食をともにしながら月の出を待つ。月が出たときにその姿を拝むと、幸せに恵まれるとか、未婚の女性がひそかに鏡をのぞくと未来の夫の姿が映るとか、子宝や安産に恵まれる、などの言い習わしがあった。

月待行事を行なった記念に講中（こうじゅう＝仲間の集まり）で建てたのが、十九夜塔、二十三夜塔などの月待塔である。

(12)月待行事は昭和三十年代ごろまで農村地帯を中心に続けられていたが、現在はほとんど行なわれなくなった。

（八）森西川自治会館南共同墓地の十九夜塔

台石に女性十六人の名前が刻まれている。(13)

ふで・かつ・さき・こん・しま・□□・きく・たかくに・□ん・□つ・□□・みね・かね・れん・たみ

［場所］森西川自治会館南共同墓地
［住所］越谷市増森
［石仏］十九夜塔(14)
［年代］江戸後期・嘉永六年（一八五三）
［像容］（主尊）如意輪観音（主銘）十九夜塔
［銘文］「西川組 講中」、女性十六人の名前…他

台石に女性 16 人の名前が見える。

目視で確認できるのは「みね」「かね」「れん」「たみ」…。

(13)台石の最下部か土に埋もれているため、刻まれている女性の名前が読みとれない箇所も多々あったので、加藤幸一（二〇一九）「平成十六・十七年度　増森・中島の石仏　平成三十一年七月改訂」越谷市立図書館所蔵、三十四頁・九十一頁と照らし合わせた。

(14)十九夜塔…十九夜に人々（女性たち）が集まって月待を行なった記念に建てた石塔。十九夜塔には如意輪観音が本尊として刻まれていることが多い。この十九夜塔にも如意輪観音が陽刻されている。

（九）東福寺の十九夜念仏塔

石塔の中央に、十九夜の主尊・如意輪観音が陽刻され、側面に「十九日女念仏講中」「施主五拾人」の文字が刻まれているので、女念仏講(15)の仲間五十人で建てた十九夜念仏塔である。

［場所］東福寺
［住所］越谷市東越谷一丁目
［石仏］十九夜念仏塔
［年代］江戸中期・享保七年（一七二二）
［主尊］如意輪観音

［銘文］「十九夜女念仏講中」「施主五拾人」…他

⑮銘文に「施主五拾人」「十九日女念仏講中」とあることから、この地区（旧・小林村）は女性たちによる念仏講が盛んだったことがうかがわれる。『越谷市史（一）通史上』越谷市役所（昭和五十三年三月三十日発行）「念仏講の諸相」（一二三八頁・一二三九頁）に、越谷市の念仏講と十九夜講について、次のような記述がある。

「月待は中世からなるが、江戸時代にはとくに、二十三夜・十九夜の講が発達したようである。［……］［越谷市域では］十九夜講・二十三夜講が各所に結成されていたことが明らかである。ことに十九夜塔は、『女人講中』と刻したものが多く、婦人たちの集団組織を前提としている。［……］越谷市域では女性の講組織が旺盛である。［……］娘講・嫁さん講・おかみさん講・念仏講、と女性のみの形づくる年齢階梯的講の発達は、目を見はるものがある。こうした現行の民俗［……］の素地というべきものは、まさしく『十九夜講』にあらわれている、といってよい」

（十）東福寺の地蔵像付き念仏塔

石塔の中央に陽刻された地蔵菩薩立像。左肘の横に「右建立意趣者為□中 女人念仏講中 二世大願成就也」と刻まれていることから「女人念仏講」の女性たちが建てたことがわかる。石塔に向かって左下、「施主 村仲□□□之女人」の脇銘にも「女人」とある。⑯

［場所］東福寺
［住所］越谷市東越谷一丁目
［石仏］地蔵菩薩立像
［年代］江戸中期・享保三年（一七一八）
［像容］地蔵菩薩立像
［銘文］「女人念仏講中」「施主 村仲□□□之女人」…他

⑯銘文は、一部読みとれない箇所があったので、正確を期するために、加藤幸一（二〇一九）「平成十六・十七年度 花田・小林の石仏 平成三十一年七月改訂」越谷市立図書館所蔵、四十七頁・一〇六頁と照らし合わせた。

（十一）西円寺の十九夜念仏供養塔

石塔の脇銘に「女人講中」と刻まれ、主銘に「十九夜念仏供養」とあるので、女人講中によって建てられた十九夜念仏塔である。石塔の上部に座像の主尊が陽刻されているが、劣化のため、仏の名前はわからない。十九夜の主尊は一般的には如意輪観音だが、この石塔の仏の姿は如意輪観音とは異なっている。

［場所］西円寺
［住所］越谷市花田一丁目
［石仏］不詳
［年代］江戸後期・文政元年（一八一八）

主銘に「十九夜念仏供養」、脇銘に「女人講中」の文字が確認できる。

［像容］（主尊）不詳（主銘）十九夜念仏供養
［脇銘］「女人講中」…他

備考

本稿で採りあげた月待塔は、銘に「女人念仏講」または「女人講」と刻まれているものだけに限定した。また「念仏講」や「十九夜塔」の銘があっても男性の名前が刻まれているものもあったので、造立者の性別が確認できないものは対象外とした。

出典

加藤幸一（二〇一九）「平成十六・十七年度 大相模地区の石仏 令和元年九月改訂」
越谷市立図書館所蔵
加藤幸一（二〇一九）「平成十六・十七年度 花田・小林の石仏 平成三十一年七月改訂」
越谷市立図書館所蔵
加藤幸一（二〇一九）「平成十八年度調査 蒲生地区の石仏 平成三十一年七月改訂」
越谷市立図書館所蔵
加藤幸一（二〇一七）「平成十四年度調査 荻島地区の石仏 平成二十九年三月改訂」
越谷市立図書館所蔵
加藤幸一（二〇一九）「平成十六・十七年度 増森・中島の石仏 平成三十一年七月改訂」
越谷市立図書館所蔵
萩原龍夫（一九七五）『越谷市史 第一巻 通史上』越谷市役所
越谷市史編さん室編（一九六九）『越谷市金石資料集』（市史編さん昭和四十三年度調査報告）
越谷市史編さん室
越谷市史編さん室編（一九七〇）『越谷市民俗資料』（市史編さん昭和四十四年度調査報告）
越谷市史編さん室
平野実（一九六九）『庚申信仰』角川選書
飯田道夫（一九九一）『日待・月待・庚申待』人文書院
庚申懇話会編（一九九五）『日本石仏事典（第二版）』雄山閣
日本石仏協会編（一九八六）『日本石仏図典』国書刊行会
日本石仏協会編（一九九七）『石仏巡り入門 見方・愉しみ方』大法輪閣